

第 1 回白馬村社会福祉推進委員会  
(白馬村高齢者福祉計画策定委員会) 会議録 (要約)

召 集 年 月 日	平成 2 4 年 1 月 2 4 日（火）午後 1 時 3 0 分							
召 集 の 場 所	保健福祉ふれあいセンター 2 階 学 習 室							
開閉会の日時 及 び 宣 言	開会	平成 24 年 1 月 24 日（火）午後 1 時 30 分			福祉 係長	吉田 久夫		
	閉会	平成 24 年 1 月 24 日（火）午後 3 時 15 分			委員長	松澤 衛		
出 席 者 数	委員数 15 名の内 出席者 14 名							
出 席 委 員	職 名	氏 名		出欠	職 名	氏 名		出欠
	副委員長	吉沢 治代		出	委 員	江原 貞子		出
	委 員	栗田 裕二		出	委 員	塩島 昭次		出
	委 員	武田 進		出	委 員	西沢 千賀子		出
	委 員	太田 修		出	委 員	丸山 悦子		出
	委 員	西澤 範昭		出	委 員	太田 穂積		出
	委 員	丸山 徹		出	委 員	松本 英子		出
	委員長	松澤 衛		出	委 員	中村 真琴		欠
	委 員	杉山 憲治		出				
事 務 局	住民福祉課長		倉科 宜秀		住民福祉課 住民福祉係長		吉田 久夫	
	住民福祉課 保健介護係長		津滝 明子					
傍 聴 者	なし							

## 1. 開 会

〔事務局：吉田係長〕 開会を宣言した。

## 2. あいさつ

〔太田村長〕 第 1 回策定委員会への出席及び福祉事業の推進に対しお礼を述べ、老人福祉計画策定の協力をお願いした。

## 3. 委嘱書交付 席上配布にて省略。

## 4. 委員及び事務局職員の紹介

「資料 1」委員名簿の順に各委員は自己紹介し、引き続き事務局職員も自己紹介をした。

## 5. 委員長及び副委員長の選任

〔事務局：吉田係長〕 「資料 2」白馬村社会福祉推進委員会設置要綱に基づき、委員長及び副委員長の互選を求めた結果、委員から「事務局の腹案は」という発言があり、委員長に松澤衛委員、副委員長に吉沢治代委員を提案し、承認された。

## 6. 会議運営に関する事項の確認

〔議長：松澤委員長〕 事務局に説明を求めた。

〔事務局：吉田係長〕 「資料 3」会議運営に関する確認事項に基づき、次のとおり説明した。

- 会議は原則として平日の日中開催し、会議時間は概ね 90 分を限度とする。
- 会議資料は基本的に事前配布する。
- 会議及び会議資料は原則として公開する。
- 会議の録音及び写真撮影（ビデオ撮影を含む。）の申し出があった場合は委員長の許可を得る。
- 事務局による記名の会議録（要約）を作成し、委員長の下承を得て原則として公開する。
- 会議録は事務局で保存し委員の必要に応じて供覧する。
- 協議結果は委員個人の意見ではなく、委員会としての検討結果をまとめる。
- 上記以外に委員会の運営について必要な事項が生じた場合は、その都度委員会で協議する。

〔議長：松澤委員長〕 事務局の説明に対して質疑・意見を求めた。特に質疑・意見がなく、会議運営に関する事項は了承された。

## 7. 協議事項

### （1）現計画の検証について

〔松澤委員長〕 事務局に説明を求めた。

〔事務局：吉田係長〕 「資料 4」と平成 21 年 3 月策定の「白馬村高齢者福祉計画」により説明した。

現計画は平成 21 年度から平成 23 年度の白馬村高齢者福祉計画の検証となり、この計画に記載してある目標値に基づき、平成 21 年度・平成 22 年度の実績及び平成 23 年度見込み数値で説明をした。

期間中に制度等の変更されたものもあり、比較することは難しいかもしれないことを説明した。

「特定高齢者把握事業」は、平成 22 年度より把握方法の変更に伴い、見込み数値は目標数値より伸びている。

「運動不足解消講座」は、平成 22 年度より白馬村地域総合型スポーツクラブにおいて同様の講座を行うことから事業を見直している。

「安心コール」は、見込み数値が目標数値より伸びているものの、その他の事業については目標回数については概ね達成しているが、延べ人数は目標に達成していない状況を説明した。

移送サービスについては、平成 22 年度から社会福祉協議会において道路運送法に規定する「福祉有償運送」として行っているなどを説明した。

〔松澤委員長〕 事務局の説明に対して質疑・意見を求めた。

〔栗田委員〕 配食サービスが H21・H22 で数が減っている原因は。

〔事務局：吉田係長〕 配食希望は、1 日 1 食を本人希望で行っている。人数はほぼ変更はないものの結果として数値は集計上減少しているが、制度が変わったわけではない。

〔武田委員〕 配食サービスの 1 食の料金と公費負担額は。

〔事務局：吉田係長〕 公費負担分は 800 円、所得制限は設けているが個人負担は通常 500 円となる。

〔西沢（千）委員〕 実情は、以前も所得制限はあったが、2 食とっても 500 円で、今は 2 食目からは 800 円となるなど 1 食分しか補助がないこと、前年の所得が上がったことで実費分になることで止めるなど、摂りたくてもとれない実情もある。

〔丸山委員〕 1 日 2 食の 1 食の補助が無くなることや、それに伴い止めるなど現場から聞いている。

〔松澤委員長〕 国の制度による補助金制度が廃止され、負担が増えている実情はある。

〔太田（修）委員〕 運動不足解消講座の時は、地区でやっていたのか。

〔事務局：津滝係長〕 計画を立てて講座を行っていた。総合型を活かすために見直した。

〔松澤委員長〕 運動不足解消と総合型スポーツクラブを一緒にすることがいけないとはいわないが、どういう結果になったのか。やってみて無理があると思う。

〔事務局：津滝係長〕 出席人員が少なく効果が上がらないことから移行している。今年からなので数値からみる集計はできていない。

〔松澤委員長〕 事務局の検証は結果としてうまくいったのかの解釈は。

〔事務局：吉田係長〕 先ほどの説明のとおり人数は概ね良いが延べ人数や時間などは達していないこと

が見られるので、内容的なものを考えなければならないと感じている。具体的な方策があれば示してもらいたい。

〔太田（修）委員〕 軽度生活支援・生活管理事業の利用が少ないが利用者がいないのか。

〔事務局：津滝係長〕 そのとおり。

〔松澤委員長〕 いろいろな制度がなかなか周知されていないのか、利用がないのか手をいれなければならないことを感じている。

以降 質問・意見なし。

## （２）高齢者を取り巻く現状について

〔松澤委員長〕 事務局に説明を求めた。

〔事務局：吉田係長〕 「資料５」により説明した。

人口・高齢者数の推移及び推計では、年々総人口は減少するが、反面、高齢者人口が増加の傾向にあり、それに伴い高齢化率も年々高くなることが推測されている。また、「白馬村の人口ピラミッド」の結果から、５歳階層の一番多い年代が６０～６４歳となっており、ここ数年で高齢者と呼ばれる６５歳以上となること想定される。

要介護認定者数の推移及び推計では、概ねすべての区分において、増加が予想される。

介護サービスの利用状況では、平成２１年度と２２年度の北アルプス広域連合で実施された介護サービスのうち、白馬村分の実績を掲載している。

介護保険給付費の推移及び推計では、広域連合のホームページにも掲載されているが、年々増加していくことが予想される。

第５期計画における介護サービスの内容、裏面は介護保険料の推移ということで、第５期における介護保険料につきましては、５０００円で昨日の正副連合長会議で承認され、進めていくことを説明した。

地域支援事業では、現計画の検証でも触れたが、介護予防事業、任意事業、包括的支援事業及びその他の高齢者福祉事業を一体的に実施している。

介護予防事業では４つのメニューを、包括的支援事業は、白馬村包括支援センターを中心に相談業務等を行っている。

「高齢者施策事業」については、特定高齢者施策として、「まめった講座」を実施している。これは、週１回、３ヵ月を１サイクルとし、トレーニングマシンを使った運動・体操・個別栄養指導・歯科指導を神城医院に委託をしている。

一般高齢者施策として、「高齢者健康教室」では、各地区の公民館を巡回して高齢者の健康に関する講座を開き、講座内容は毎年変えるようにしています。

「よりえ〜ブラザ」は、閉じこもりがちな高齢者及び要介護状態の恐れのある高齢者を対象に、健康チェック、体操、食事、散歩、談話などにより、介護予防を実施しています。なお、本年より NPO 法人健学塾への委託事業として実施中、「高齢者への栄養指導」で、食生活改善推進協議会の協力により、栄養指導をお願いしている。

包括的支援事業では、白馬村地域包括支援センターを中心に、高齢者やその家族等からのさまざまな相

談に応じ、必要な情報提供やサービス調整を行う総合相談。高齢者虐待への対応、金銭管理などの権利擁護、関係機関との連携や介護サービス以外の様々な生活支援をする包括的・継続的ケアマネジメント、高齢者方が住み慣れた家で自立した日常生活が継続出来るよう支援し、介護状態の予防について介護予防マネジメントを行っている。

任意事業では、おむつ用品等購入助成と安心コールを行っており、おむつ用品購入については、要介護4・5の在宅で介護している非課税世帯を対象に、一人当たり75,000円を限度に助成し、安心コールは、独居老人を対象に週1～2回安否確認と健康状態の確認をおこなっている。

その他高齢者福祉事業の内容を説明した。

〔松澤委員長〕 事務局の説明に対して質疑・意見を求めた。

〔塩島委員〕 おむつ用品の助成で、人工肛門とかの助成は。

〔事務局：津滝係長〕 障害者の事業として助成している。

〔塩島委員〕 障害者の級によるのか。

〔事務局：津滝係長〕 障害者は全員対象となる。

以降 質問・意見なし。

### （３）高齢者等実態調査報告

〔松澤委員長〕 事務局に説明を求めた。

〔事務局：吉田係長〕 資料6により説明した。

この調査は、3年ごとに見直しをしている介護保険事業計画を立てるための基礎数値を得ることを目的として、北アルプス広域連合が実施した。なお、この高齢者実態調査は、一昨年12月から昨年1月かでの間で実施したもので、個別訪問による悉皆調査である。

追加資料として、この調査結果の設問表を配布し、資料に基づき主だった調査結果について説明した。

引き続き、高齢者等実態調査報告を白馬村分について、先に説明した実態調査報告の白馬村分を抜き出して資料にしていること。220人から回答を得たデータであることを説明し、資料に基づき主だった調査結果について説明した。

〔松澤委員長〕 事務局の説明に対して質疑・意見を求めた。

〔塩島委員〕 介護施設の関係で、さくらんぼが閉鎖となると聞いたが、1月いっぱい終わるのか、その後の方策は。

〔事務局：津滝係長〕 1月で終了と報告を受けている。1施設が減るということ、新規でやる方もいないので、その関係で色々と調整している。

〔塩島委員〕 通所の方の場所について、施設は足りているのか。

〔事務局：津滝係長〕 冬は施設入所者が白馬は多いので、包括支援センターを中心にケアマネさんを通じて、ほかの施設でお願いしているが十分ではないかもしれない。最近では苦情も聞かれる。

〔塩島委員〕 包括支援センターはこの関係では。

〔西沢委員〕 直接利用者を抱えていないので、ケアマネさんと外の通所サービスで相談している。さくらんぼさんの前から通所サービスがいっぱいという話があった。確かに行くところがなく、村外の事業へもお願いしているが、利用者の場所的な指定も受けるなど、ぎりぎりの状況である。

〔事務局：倉科課長〕 白馬村では夏季・冬期に施設入所が増えると言うことで、急遽通所利用者が減少するなど、施設として経営的に不安定となる傾向があることを伺っている。

〔松澤委員長〕 白馬は特に顕著だと思うが、丸山委員さんに中間施設を持っていることで経営的な面で伺いたい。

〔丸山委員〕 ほぼ入所は 80 のところ、77～78。通所は、80～85%の利用率である。利用者ニーズにあったサービスを展開したい。

〔松澤委員長〕 アンケート結果の介護保険料で、白馬村も大北も 100 人に例えると 15 人位の介護認定を受け、サービスを受けている人は 14.8 人位である。料金が上がってもよいということが理解できない。国では在宅の 24 時間医療体制について示しているようだが、この点を栗田委員に伺いたい。

〔栗田委員〕 話は特別無い。負担がかかり非常に難しいと思う。

以降 質問・意見なし。

#### （４）策定計画について

〔松澤委員長〕 事務局に説明を求めた。

〔事務局：吉田係長〕 資料 7 により説明した。

計画策定の趣旨は、高齢化社会の進行に伴い、本人や家族が抱える老後の介護に対する不安と負担を、社会全体で支え合う制度として介護保険制度が始まり、高齢者が可能な限り、自分の家で尊厳ある自立した生活を営むことができるよう、また、家族が住み慣れた地域で安心して生活していくためには、高齢者に対する介護予防や生活支援等の取り組みが必要である。

今回策定する白馬村高齢者福祉計画は、高齢者を取り巻く社会状況や課題を踏まえて、目指すべき基本的な政策目標を定め、取り組む施策について明らかにするものである。

計画の位置づけは、白馬村高齢者福祉計画で、老人福祉法に規定されている老人福祉計画と介護保険法に規定されている介護保険事業計画の両計画は、一体的に策定することとされている。

介護保険の運営は、北アルプス広域連合が保険者となり運営しているため、第 5 期介護保険事業計画は、

北アルプス広域連合が策定し、現在策定中であり、その介護保険事業計画と整合した計画とする。

この計画期間は、平成 24 年度から平成 26 年度の 3 ヶ年計画とする。

計画策定のスケジュールは、第 2 回の委員会で、計画の骨子の検討、計画目標の設定について、委員の皆様にご意見を伺いたい。そこから第 3 回で計画案の検討をしていただき、計画としていきたいと考えていることを説明した。

〔松澤委員長〕 事務局の説明に対して質疑・意見を求めた。

〔武田委員〕 今まで、高齢者に対して行っていたことについて作りなおすということか。

〔事務局：吉田係長〕 福祉施策は、予算があって初めてできることとなる。この計画は国の制度や村が行っている内容について、現状と課題を探って、解決する施策を考えることとなる。この委員会で、こうすることをやるべきだ等の意見が出されれば、計画に盛り込んでいくこととなる。

〔事務局：倉科課長〕 これまでの施策を変えるのかということと大きく変わらないだろうと。180 度方針を変えと言うことにはならないと思う。

〔武田委員〕 毎年 3 月に保険委員会があるが、老人福祉に関しては色々なことをやっているの、非常に良好な状態で推移していると思う。なぜ、新たに施策をつくるのかが理解できない。

〔松澤委員長〕 広域の介護保険計画とリンクしているので 3 年ごとの見直しが必要となる。施策が良いのであればこれを継続することとなる。

〔松澤委員長〕 各委員から、日常生活の中で思っていることでも良いので、委員の意見を求めた。

〔西澤（範）委員〕 介護保険法での、介護保険サービスの横出し・上乗せ事業をこの策定委員会で行って良いか。

〔事務局：倉科課長〕 あくまでも村の単独事業として行っていくことで、介護保険への横出し・上乗せの計画は行わない。

〔西澤（範）委員〕 村で予算付けをして、サービスを行う内容で良いか。

〔事務局：倉科課長〕 介護保険は広域の計画を、そのまま行うということになる。

〔西沢（千）委員〕 介護保険の在宅サービスや施設、医療機関、介護保険外のサービスなどが連携し、継続的にサービスが提供できる地域包括ケアの仕組みをこの計画の中に入れて欲しい。

独居や高齢者世帯が増えており、買い物や通院で困っている方もいる。この方に手が届かないことを計画に載せて欲しい。

村から計画を立てて下ろしていたが、これからの計画は住民参加により、住民参加が図れるような手法として計画を作してほしい。

〔事務局：吉田係長〕 村の各種の計画には、公募委員を募っているが中々応募してこない。どういう方に委員に入ってもらえるのか考えなければならない。

〔西沢（千）委員〕 住民が関係機関などと連携して自発的に福祉活動ができる仕組みづくりをして欲しい。

〔事務局：倉科〕 栄村の下駄ばきヘルパーのようなものか。

〔西沢（千）委員〕 似た感じではある。

〔江原委員〕 国では地域福祉計画を策定するように言っている。この地域福祉計画は高齢者だけでなく、児童福祉も含めている。この計画は住民参加でつくりなさいと謳われているので、これからの３年間だけでなく、団塊の世代が高齢者となる先を見据えることが必要だ。

〔松澤委員長〕 住民が主体となってやることも聞いているが、難しい面がある。こういう機会を通じて思っていることを話してもらいたい。否定するものは無いことも事実である。

〔丸山委員〕 現場の声が挙がってくる必要があると思う。

〔杉山委員〕 実際問題、住民の意見を吸い上げることは設定しても来る方も少なく難しいので、事業所の連絡会を開いているので、そういう場面において出された現場の意見をこの場にもってくればと思うし、伝えたいと思う。

〔太田（修）委員〕 サービスは、申請によって動き出すということで実際にサービスのシステムを知らない。内容が決まったら周知することが必要である。

## 8 閉 会

〔松澤委員長〕 閉会を宣言した。

終了 １５：１５

以 上